

---

# 自分隠しに大切なこと。

たくあん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

自分隠しに大切なこと。

### 【Nコード】

N0382Z

### 【作者名】

たくあん

### 【あらすじ】

殺人経験のある少しおとなしめな高校一年生桜井 水瀬と両親が早くに他界し、孤児院で育った自由気ままな高校一年生南 海斗の学園生活を描いたコメディ多め（のつもり）で、シリアスも入れたりするラブ（？）ストーリー！

## 第一話「夢はいつも敵」(前書き)

更新は気が向いたときにします。なにぶん三日坊主なもので・・・。  
この小説はなるべく続けますのでお暇なときに読んでってください。

## 第一話「夢はいつも敵」

始まりはいつもお昼。二度と思い出したくない事件の起こる二時間前の少し遅めの起床から始まる。

自分隠しに大切なこと。第一話「夢はいつも敵」

午前12時15分。桜井さくらい 水瀬みなせはまだベットの上で眠ったままだった。本当は一度7時ぐらいに起きたのだが、休日と言う事で二度寝をしたのだった。

「・・・あれ？もう12時か・・・」

思っていたよりも寝過ぎてしまっていたようで、頭がボーっとする。今日は特に用事が無いので問題は無いが。

「おなかすいた・・・」

誰に言うでもなくつぶやいてみる。そういえば今日は両親が帰ってくるのは遅くなるとか言っていたような気がする。

「しかたないな。自分で作ろう」

小学4年生の水瀬はかなり「出来た子」だった。勉強、料理、運動なんでもこいの優等生だった。だがやはり苦手なものもあり、虫とお肉は見たくも無いぐらいだった。とにかくおなかですいたので何か作ろうと冷蔵庫を開けるとそこには・・・何も無かった。

「買い物ぐらい行っておいてよ〜！」

本当に漫画みたいは何も無い。机の上を見ても、何かを作っておいてくれる様子も無い。

「食材も料理も血も涙も無い・・・」

・・・近くに誰もいないことを確認して安心する。今は絶対に人前では言えない。

「・・・あんまり変なことは言わないようにしなきゃね」

自分自身に釘を刺し、とにかく買い物に行くことにする。

突如世界が闇に覆われる。

・・・このままいつもの生活が続けばよかったのに

・・・分ってる。もう過ぎたことだから。もうあきらめてるから

・・・でも、やり直せるならやり直したい。

・・・殺したかったわけじゃない。

目の前にあるのは強盗犯から広がる血の海。そして水瀬の手にあるものは・・・真っ赤なナイフ。

・・・仕方が無かったんだよ。だって、ああしないとお母さんが。

小学4年生が放った母を守るためのナイフは、強盗犯の命だけでなく、娘に注がれるはずの母の愛情さえも刈り取っていった。

「私が・・・私が・・・」

「殺した・・・？」

その日、水瀬から本当の笑顔は消えてなくなった。

「・・・またあの夢か」

もう見慣れた最悪の悪夢から目を覚まし、高校生になった水瀬はベ  
ットから体を起こす。時計を見ると、丁度午前12時15分を回っ  
ていた。

第一話「夢はいつも敵」(後書き)

やっぱりシリアス苦手だなあ……。次からはあんまりシリアス入れないようにしないと。。。

## 第二話「表面だけの友達」

「おーい！水瀬ー！」

この声を聞いたのはもう何度目だろうか。学校がある日は毎朝毎朝大声で名前を呼ばれるのだ。今でこそ誰も気にはしていないが最初のほうは誰もが振り向き水瀬を見る。迷惑なことこの上ない。だがそんなことも知らず自由気ままな無神経少年 南 みなみ 海斗 かいと は今日も水瀬の名前を呼びながら走る。

自分隠しに大切なこと。第二話「表面だけの友達」

「何度言ってもやめてくれないのね」

この言葉も何度繰り返したことが。だが一向に海斗はやめようとなない。

「いいじゃねえかよ〜もう日課みたいになっちまってんだからさ〜」

なぜそうなる前にやめなかったのか。聞いたってどうせアホみたいな言葉しか返ってこないことはもう熟知している。

「お前また俺のことバカにしてんだろ」

「その通りだよ」

ドサツと海斗がこける。なぜいつも新喜劇ぐらいのオーバーリアクションなのか。

「そこは してない って言うところだろ？」

「嘘はよくないよ」

「そんなに！？そんなにバカにしてたの！？」

そんなこんなで学校に着いた。いつも海斗と話しながら来ると学校に着くのが異常に早い。

「あ！しまった・・・」

「どうしたの？」

どうせ課題を忘れたとかそんなところだろう。

「・・・水瀬、英語のノートあるか？」

「はいはい」

どうせそんなところだろうと思っていた。

「悪い水瀬！次の授業には返すから！」

そう言って走っていった。本当に次の授業までに帰ってくるのかは

時の運だと思っ。

「ちょっと桜井さん？」

振り向くとT H Eお嬢様と言っあだ名で有名（海斗談）の 桐生きりゆう  
涼子りょうこ

が立っっていた。

「あなた、南君とはどういっ関係ですの？」

「・・・は？」

いきなりすぎて状況がつかめない。いや、言っっている意味はわかるが。

「ですから！桜井さんと南君はどっいっ関係か聞いていますのよ

「そんな軽くイラつかれても・・・。別に特別な関係じゃないよ

「そうですか、それなら良いんですわ。・・・あなたたち、行きま  
すわよ

取り巻きAとBが後ろから付いて行く。結局なんだったのか。

「なんだかめんどくさくなりそう・・・」

結局ノートは昼まで帰ってこなかった。

## 第二話「表面だけの友達」(後書き)

なるべくギャグ多めに仕上げたつもりです。TUMORIです！。新キャラ登場でかなりこれから辛くなりそうです・・・orz

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0382z/>

---

自分隠しに大切なこと。

2011年12月3日18時03分発行